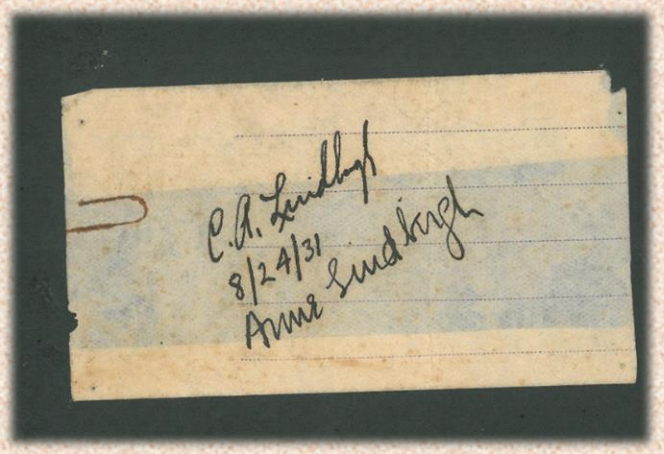
国後島・択捉島に不時着したリンドバーグ夫妻と島民の交流　その三

リンドバーグ夫妻のサイン　～国後島出身の山下 文子さん～



山下文子さんは大正三年福井県生まれ。お父さんの転勤で根室にやってきました。

昭和六年八月二十四日、根室港で空の英雄リンドバーグと妻のアン夫人の到着を待つ約五千人の住民。当時十六歳だった文子さんもその一人でした。

根室港での出迎えを終え、集まった住民が歓迎式典会場の花咲小学校へ向かう中、文子さんはリンドバーグ夫妻の宿泊先の二美喜旅館に向かい、歓迎式展用に衣服を着替えるために立ち寄ったリンドバーグ夫妻と会うことができました。

文子さんは「アン夫人は小さく、リンドバーグはスラッとして背が高かった。手を振ると手を振り返してくれた。とても笑顔の良い方でした。」と当時を振り返ります。

このサインは、リンドバーグ夫妻が根室到着前日に濃霧のため不時着水した国後島東沸湖を出発する前に当時村会議員をしていた山下さんのお義父さんの庄太郎さんがもらったものです。サインを書いてもらう綺麗な紙がなかったため、切れっ端に書いてもらったもので、リンドバーグとアン夫人のサインに加え「8／24／31」と日付けが書かれています。このサインは、写真とともに今もなお大切に保管されています。